

令和元年11月15日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 阿部 治正 様

議会報告会 3班（中部地区）
班長 中川 弘
野田 宏規
近藤 美保
石原 修治
斉藤 真理
藤井 俊行
小田桐 仙

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 令和元年11月10日（日）
午前9時30分～午後11時30分
- 2 場所 おおたかの森センター 会議室2
- 3 欠席議員 なし
- 4 来場者数 市民来場者 18人
議員・職員 議員5人 職員2人
（事務局・企画政策）
- 5 報告内容
どうなる？ どうしたい？ これからの流山
（今後のまちづくりの方針について）

- ・平成30年度一般会計決算審査 指摘・要望事項
- ・次期総合計画策定に向けて
- ・次期総合計画の議会での審議内容概要

6 意見交換内容

- ・予算の配分について（メリハリを持たせては）
- ・防災運営等を自治会一本にしないでほしい。自治会以外のコミュニティも検討に加えてはどうか。
- ・マスコミ報道のあった「いじめ問題」について
- ・次期総合計画委員会の執行部の出席者について
- ・本日参加議員の思う10年後の流山市について
- ・学童クラブ支援員の質について
- ・その他、街づくり要望について

7 参加者から議会への要望

- ・避難所運営や防災について考える砂州は、自治会以外のコミュニティも考慮してほしい。自治会が存在しない、未加入者も多い地区もあるのを考慮してほしい。
- ・いじめ問題で、市民が、聞きたいのは、個人情報ではなくて、「教育委員会の対応のどこに問題があって、それを今後どのように対応していくか」であって、謝罪を特段求めているわけではない。個人情報を盾にして「全部説明できません」ということはあり得ない。個人情報を除いても、きちんと改善点を説明することは可能なはずである。市議会の皆様においては、相互監督機能を十分に果たしていただき、ぜひ、流山市および教育委員会への監督・追求をお願いしたい。
- ・4点要望する
 - ① 支援員さんたちのスキルの向上も心掛けていただきたい。
 - ② 学童保育で、スケジュールが決まりすぎていて、窮屈に感じる子供もいる。もう少しフレキシブルにな対応をしてほしい
 - ③ トラブルになった時、親も、施設運営者もそれぞれが相談できる窓口が欲しい
 - ④ テンションが上がってしまった子供がクールダウンできる空間を作してほしい

- ・学童クラブの支援員の質の向上を図ってください。
- ・流山市も放課後子ども教室と共に学童クラブが運営できるようにしてほしい。

※ アンケートによる要望は別紙

8 所感

中川 弘

次期総合計画という固い表現ではないテーマとしたこともあり多くの市民の方の参加を頂けたこと、落ち着いたやり取りが出来たことは良かったと思う。

班以外の議員の傍聴参加の在り方については、公務の一環であるとの認識欠如が見られたため、今後改善を要する。

野田 宏規

活発に話し合いがなされ、素晴らしい機会になりました。個人的にも、これからの流山の課題がよく理解できました。

近藤 美保

多様な意見を持つ議員が審議しながら、かつ、市と競い合い、協力し合うことで、最良の意思決定をしていこうというのが二元代表制であるが、議会としての政策提言を行っていくためには、より多くの議員が共通認識を持つ事が必要である。今回の議会報告会では、市民からも多くの意見が出て、また議員からも多様な意見が出て、議会で提起できる材料が沢山提示されたと思う。

特に保護者による学童の問題点や、質改善に向けた要望は切実であった。同様の声を沢山聞いているが、議会報告会に足を運び声をあげられる人はごく少数であるため、この声にしっかり向き合っていきたい。

総合計画関係のご質問もあったが、民間とは違い、19万人がターゲットと広いし、法令で決められている義務的経費もある中、選択と集中の度合いが、市民の方のご想像と食い違っているようであった。この辺はもっと丁寧に意見交換していきたい。

いずれにせよ、議会報告会という場がもっとフラックであれば、

さらに闊達に意見交換が出来るはずである。今後は、もっと気軽に足を運んでいただけるよう、フランクな場づくりを行っていききたい。

石原 修治

今回の議会報告会では、「どうなる？ どうしたい？ これからの流山」をテーマとし、次期総合計画の素案を基に今後のまちづくりの方針について報告させていただき、市民の方々から防災、学童、教育関係等、切実なる訴えや多くの意見や要望が出された。今後も市民との意見交換の場は、より開かれるべきと感じた。

一個人の議員としては地域の課題、問題に取り組むのは当然のことながら、議会としてさらに多くの市民からの声を受け取れることも、開かれた議会には欠かせないことであると感じる。若い世代の方々にも気軽に参加していただけるような議会報告会の開催を今後の課題としていきたい。

斉藤 真理

試行錯誤しながら実施してきた議会報告会ですが、今回は、グループ編成を、常任委員会ごとから、地域ごとに編成し、実施しました。

それにより、地域課題を取り上げやすくなったことでのメリットもあると感じました。

私が議員になったばかりの8年前の議会報告会は、市民の方の参加が少なく、常連の方ばかりだったりしましたが、今回開催のおおたかの森駅周辺の方は、若い世代の方なども多く、それぞれのご意見を伺うことが出来、とても有意義な報告会になったと思います。

メインテーマを「次期総合計画」としましたが、参加者の多くの方が、広報に掲載された「次期総合計画」の概要に目を通していただいております、意識の高さを感じました。

課題として感じたことは、年齢層が幅広い点は良かったのですが、それぞれ関心のあるポイントが違うため、十分にご意見を伺うだけの時間が取れなかったように思います。

参加された方からのアンケートの中に、「もっと、議員の話を

聞きたい」や「市民の声を聴いてもらえる機会を増やしてほしい」などもあり、今後、テーマの決め方や、報告会のスタイルなど、工夫をしていくことも必要かもしれないと感じました。

藤井 俊行

今回の議会報告会には多様な年代の方に参加していただいた。アンケートにあるように問題（テーマ別）のディスカッションをする意見交換の議会報告会も良いと思う。参加者全員が発言できる。そんな議会報告会が望ましい。議事録を取りながらの答弁は難しい。録音をすれば良かった。個人的見解を強調する方の参加がなく、有意義に意見交換ができたと思う。一般質問で取り上げるべき問題も多々あったと思う。

小田桐 仙

子育て中の保護者から学童保育や学校の運営について、自治会立ち上げの困難さが直接お聞きできた事や、市民が主体的に市政に参画する中での疑問点をやり取りでき、大変有意義でした。

ただし、政策的な深めを議員個々で深めるしかないので…報告会の議員構成は再度見直しが必要ではないか。もしくは、報告会后に政策立案の場の確保が必要だと考えます。